

私立大学研究ブランディング事業

令和元年度の進捗状況

学校法人番号	131021	学校法人名	駒澤大学		
大学名	駒澤大学				
事業名	「禅と心」研究の学際的国際的拠点づくりとブランド化事業				
申請タイプ	タイプB	支援期間	5年	収容定員	14071人
参画組織	8学部(仏教・文・経済・法・経営・医療健康科・グローバル・メディア・スタディーズ・総合教育研究部)、1研究科(法曹養成)				
事業概要	現代社会が直面している「心の問題」に、禅(ZEN)の立場から提言を試みる。禅研究の最先端に位置すると自負する本学が、江戸時代以来の研究の蓄積を踏まえ、①現代人の心の問題に新たな提言を試みるため、②多様な専門領域と禅(ZEN)を融合した研究を行い、③坐禅の身心への影響を科学的に検証し、④全学的な機関を設置して、研究成果を国内外に向けて発信する。				
①事業目的	1.禅(ZEN)の思想的研究を基礎として、現代人が抱える「心」の問題に対し、新たな提言を行う。 2.禅(ZEN)の研究を、超領域的に行うことを通し、新たな視座を獲得する。 3.禅(ZEN)思想の根幹である「坐禅」が身心に与える影響を科学的に検証する。 4.上記の1. 2. 3. を総合的に結んだ研究の成果を、混迷の一途をたどる国内外に向けて発信する全学的な組織(禅研究センター)を設置する。				
②令和元年度の実施目標及び実施計画	2019年度は、引き続き学外の連携機関と交流を深めつつ、本格的な調査研究を実施する。また、禅ブランディングWebサイトの充実を図り、学生や社会への広報活動を行う。				
③令和元年度の事業成果	<p>① 研究4チーム(曹洞禅とその源流研究チーム<以下、「源流チーム」という。>・禅の受容と展開研究チーム<以下、「展開チーム」という。>・禅による人の体と心研究チーム<以下、「身心チーム」という。>・禅と現代社会研究チーム<以下、「現代社会チーム」という。>)は、研究活動を進め、その成果発表の一環として、Webサイトコンテンツ13件を作成すると共に、各研究チーム主催または合同でのイベント等を開催し、外部発信を行った。(6/8講談、7/20シンポジウム、10/4禅の食事作法、10/17「道元絵伝」絵解き、10/25精進料理を学ぶ、11/14「日日是好日」上映会、12/13～1/10「禅の歴史」連続講座<4日間・8講座>、12/2～6臘八坐禅)。</p> <p>② 禅ブランディング発信事業チーム(以下、「発信チーム」という。)により禅ブランディング事業Webサイトにコンテンツ13件を掲載し、Instagramに34件の投稿を行った。また、2件の対談収録を行い、昨年度収録分2件、今年度収録分1件をWebサイトに公開した。 (https://zen-branding.komazawa-u.ac.jp/contents) また、昨年度に制作したクリアファイル、トートバックは、引き続き、各研究チームのイベントや大学の行事などで配布し、禅ブランディング事業の訴求に活用されている。</p> <p>③ 禅ブランディング推進係において、禅ブランディング事業全体に関わる予算編成及び執行を始めとした事務運営を行った。 また、禅ブランディングプロジェクトチーム会議3回、チームリーダー連絡会12回、自己点検・評価委員会1回を行った。発信事業の事務支援として、Webサイト、Instagram運営、サーバー管理等を行った。</p>				

<p>④令和元年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価)</p> <p>① 各チームによる研究成果は、まとまったものからWebサイトに公開したが、これまで開催したイベントの成果にはまとめきれないものもある。コンテンツを増やしていくことが今後の課題となっている。</p> <p>2018年度の課題となっていたイベントへの在校生の参加が少ない、という点は、授業との連動を図ることにより、6/8講談、10/17「道元絵伝」絵解き、11/14「日日は好日」上映会には多数の在校生の参加者があった。また、10/4禅の食事作法、10/25精進料理を学ぶは、在校生メインのイベントとして開催した。</p> <p>② インスタグラムは、2020年3月上旬にはフォロワー数が300人を超えたが、投稿数は1年間で34件にとどまった。禅語の書や仏教にまつわる動画、写真の準備には、思ったより手間がかかる状況であり、投稿内容も検討していきたい。今後は更にWebサイト、インスタグラム共にコンテンツの充実を図り、認知度や発信力を高めていきたい。</p> <p>③ 定期的にチームリーダー連絡会を開催し、研究チーム間の情報共有を図ることができた。禅ブランディングプロジェクトチーム会議の開催や、研究活動推進委員会への審議事項の上程により、当事業の取り組みが学内全体で理解が得られるよう努めた。</p>
	<p>(外部評価)</p> <p>◎明林寺住職・西田正法 氏</p> <p>【事業全体に対する評価】</p> <p>○当該事業の適切性・妥当性について</p> <p>禅<ZEN>は、行き過ぎた物質文明の中で喘ぐ人々の心を救うべく、今や世界的な広がりを得ている。しかし、民族や文化を超えて広汎に及ぶほど、布教と受容過程で変容することは免れない。「仏祖正伝」を標榜する曹洞宗門であっても、最も基本である坐禅観やその指導は様々に混在している。況んや海外をやであろう。</p> <p>斯かる状況下、広く深い禅研究において屈指の存在である駒澤大学が、全学体制で「禅と心」をテーマとして学際的国際的な禅の拠点づくりを目指すことは、正しい禅の方向性を客観的に示すことが出来る世界に期待される事業であり、駒澤大学の禅ブランド化を図る最も正当な方向であり、適切性・妥当性に優れている。</p> <p>○当該事業による目的の実現可能性について</p> <p>駒澤大学の禅ブランディング事業は、駒澤大学が永年積み重ねてきた禅研究の実績と、それを裏付ける膨大な資料を有することを基礎として、学長を中心として全学体制で実施を進めるものであり、各事業チーム独自のテーマに沿った研究成果の獲得と発表、各チーム間を繋いでの連携協力によるイベントやフォーラムの開催、発信事業チームにより適宜Webサイトやインスタグラムを活用して的確で平易な情報発信、そしてこれらの事業が円滑に進むよう下支える事業部門の努力があり、目的を実現することは可能であると思う。</p> <p>◎多摩大学経営情報学部教授・趙 佑鎮 氏</p> <p>【事業全体に対する評価】</p> <p>○当該事業の適切性・妥当性について</p> <p>禅(ZEN)の思想的研究を基礎とした現代人が抱える「心」の問題に対する新たな提言。禅(ZEN)の研究を、超領域的に行うことを通した、新たな視座の獲得。禅(ZEN)思想の根幹である「坐禅」が身心に与える影響の科学的検証。上記を総合的に結んだ研究の成果を、混迷の一途をたどる国内外に向けて発信する取組は、「禅と心」研究の学際的国際的拠点づくりとブランド化事業に向け、駒澤大学における既存研究の蓄積をさらに深化させ、また新たな視点を取り入れ進化していくことにより、駒澤大学をより一層発展させるための駒澤ブランドを明確にする事業足り得るものであり、その適切性・妥当性について高く評価する。</p> <p>各々のチームの自己評価と活動報告のなかでも、他学部・部署との連携が強調されている点で、ブランディング事業としての意義は高いものと評価する。</p> <p>○当該事業による目的の実現可能性について</p> <p>禅ブランディング事業 5ヵ年計画の4年目であるが、補助金受給期間が2019(令和元)年度までに変更となり、予算措置および実行計画の見直しの必要に迫られたところに、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けたプロジェクトもあったが、各プロジェクトが着実に成果を積み上げ、最終年度となる2020年度に一つの区切りとして成果を収斂させ、その後につながる事業展開となっている。</p>
<p>⑤令和元年度の補助金の使用状況</p>	<p>2019年度の事業経費として、16,336,128円を使用した。</p> <p>補助金の主な使用状況は、各チームの調査・研究経費、各種イベントの開催費用、本事業の広報活動費、Webコンテンツ制作費等である。</p>